

件名：

【中部防災推進ネットワーク】メールマガジン Vol.45

本文：

2024 年 6 月 24 日

■+■-----
+■┘ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.45
■┘-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2024 年 6 月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>

<http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html>

1. 本ネットワークの参画団体のご寄稿

（1）一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部
～能登半島地震からの教訓～

地震から 6 ヶ月程度経過しておりますが、改めて、能登
半島地震で被災された方々に、お悔やみとお見舞いを申
し上げます。

今回の能登半島地震の際、日建連中部支部の活動として、
中部地方整備局との包括協定に基づき直ちに支援物資
（ブルーシート等）の調達を行い、1 月 3 日の朝には、
被災地に支援物資の提供を行いました。

次に、能登半島地震からの教訓について
主だったところをお話しさせていただきます。

この地震では半島部の脆弱性が浮き彫りになったと感じられます。その中から、4点についてお伝えします。

まず、今回の復旧作業を困難にした最大の要因は交通網の寸断・麻痺です。陸路においては数少ない基幹道路が被災したことにより、通行可能な道路に交通集中が生じ、道路啓開をより困難にし、被害の大きなエリアに到達するまでに想定を超える時間を要しました。加えて、海岸線の隆起もあり海路も寸断されたことは皆様ご承知の通りです。

このような中、日建連会員企業が一丸となり、また国土交通省とも連携の上、発災翌日には現地に入り作業をスタートしました。

しかし、緊急車両や復旧のための車両の通行もある中、渋滞による復旧の遅れがさらなる渋滞を誘発するという悪循環ともいえる状況に陥ることもありましたが、国土交通省や警察の方々により、一時的な通行止めの実施や交通規制が行われたことによって作業効率が上がったということもあり、まさに官民一体で対応した事例といえると思います。

ここで得た教訓は、半島において想定される避難支援ルートの中でも基幹道路の構造を強化すること、資機材を一刻も早く投入できるよう交通情報網のさらなる強化、及び重要な交通ルートを事前に想定して資機材等の備えをしておくことだと考えています。

2点目に挙げられるのは、通信環境の悪化です。地震による基地局の機能麻痺やアクセスの集中と思われる理由により、当初通信網は壊滅的な状況でした。復旧作業を行っている現地との連絡が取りにくく、必要な資機材の手配状況や現地の労務がどのようなになっているかというような把握が不十分となり、現地のメンバーも復旧方法などの判断に窮する場面もありました。

その対応として、日常使用しているスマートフォンとは違う通信事業者のスマートフォンを現地に届けたり、会員各社が緊急時のために保有している衛星電話、デジタル無線を持ち込んだりしましたが、通信環境を急激に改善するにはいたりませんでした。このことを受け、今後は複数の通信手段を確保しておく必要があると考えます。スターリンク(衛星インターネットアクセスサービス)等の新たな技術も取り入れなければなりません。

一方、各種通信を確保した情報集約拠点を設け、その先は、実際に復旧作業場所まで人が行き来して情報伝達するなどの対策も必要になってきます。

中部地方においても、伊豆半島、知多半島、渥美半島等、同じような状況が想定される場所がありますので、十分な対策が必要と改めて感じています。

3点目ですが、トイレの不足です。大きな災害時には必ず問題になりますが、能登半島地震も例外ではありませんでした。

被災地の皆さんからは「水分摂取を控えた」という声もありましたし、衛生環境の悪化を懸念する報道もありました。日建連としても仮設トイレの確保を行い各所からの要請に応じて分配しましたが、交通網の寸断・麻痺も相まって、仮設トイレの数量確保と、それを設置するのに要する時間については、まだまだ改善の余地があると感じています。昨今では女性技術者や女性作業員も増えているので、身近で深刻な問題と捉え、優先順位を一段も二段も上げる必要のある課題と受け止めています。

4点目は食料・飲料の不足です。こちらもトイレの問題と同様に交通網の寸断・麻痺からタイムリーな供給が困難であったことに加え、通信環境の悪化から供給先の把握も難しく、かつ想定以上に時間を要した復旧作業により、結果的に必要な数量を届けきるには至りませんでした。食料・飲料については、できる限り備蓄をしておくこと、その定期的なメンテナンス、消費期限の確認や補

填等が重要であるのは言うまでもなく、さらに今後ドローン活用による運搬等新技術の採用を検討していくことも重要です。

いずれにしても、半島という特徴、半島以外にもいろいろな地理的な特徴がありますが、その特徴を事前に把握して、それに対しての備蓄品等の確保が重要である、ということを痛感した次第です。

以上を踏まえ、中部防災推進ネットワークの皆様方と様々な課題を共有し、災害時の連携や備えについて意見交換ができればと考えております。

<一般社団法人日本建設業連合会中部支部 URL>

https://www.nikkenren.com/about/shibu_5.html

○文責（一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部
総務委員会 災害対策部会）

2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

※以下3つのイベントは8月開催ですが、
申込締め切りが7月中旬のため、今月号で案内します。

(1) 公益社団法人応用物理学会東海支部、名古屋市科学館

○イベント名

こどものための実験工作教室(リフレッシュ理科教室)

○開催日時

・工作テーマA:「地震でもがんばる!おうちを作ろう」
2024年8月3日(土)10時15分~午前11時45分

・工作テーマB:「停電でもがんばる!水電池LEDランプを作ろう」

2024年8月3日(土)14時から15時30分

○開催場所

名古屋市科学館

○概要

・工作テーマ A:「地震でもがんばる!おうちを作ろう」
地震が来た時にゆらゆらゆれるお家!どうしたら地震にも負けないでがんばるお家を作れるかな?「すじかい」を入れてみたら、どうなるかな?

・工作テーマ B:「停電でもがんばる!水電池 LED ランプを作ろう」

地震や台風などで停電になったら、夜だと何も見えなくて困るね!

この工作では、水につけると光りだす、不思議なランプを作ります。

乾かせば長持ちして、水につければ必要な時にいつでも使える

不思議な水電池!

○Web ページ URL

http://www.ncsm.city.nagoya.jp/visit/attraction/event/2024/post_736.html

※対象:小学校3年生から中学生

(2) 公益社団法人応用物理学会東海支部、名古屋市科学館

○イベント名

リフレッシュ理科教室 講演会 ～防災・減災を考える～

○開催日時

2024年8月2日(金) 13時～14時

○開催場所

名古屋市科学館 生命館地下2階 サイエンスホール

○概要

「理科と社会を勉強して地震に負けない家とまちを作ろう」

どうしたら地震にも負けないお家を作ることができるのか、

地震や津波で街の被害を小さくするにはどうしたらよいのかについてのお話です。

※講演会参加者には、地震のゆれを体験できる工作
「紙ぶるる」をプレゼントします。

○Web ページ URL

[http://www.ncsm.city.nagoya.jp/visit/attraction/event/
2024/post_738.html](http://www.ncsm.city.nagoya.jp/visit/attraction/event/2024/post_738.html)

※対象：どなたでも

(3) 公益財団法人 中部科学技術センター

○イベント名

かがくであそぼ！防災・減災ワークショップ 2024

○開催日時

2024 年 8 月 3 日（土）13 時 30 分～15 時 20 分

○開催場所

東桜会館 1 階第 2 会議室

（愛知県名古屋市東区東桜 2 丁目 6-30）

○概要

身近なものを使った実験を通じて揺れに強い構造対策
を学ぼう！

（福和先生が楽しく解説！！）

～プログラム～

- ・ハザードマップの解説
- ・小麦粉とココアの断層実験
- ・プリンとようかんで地盤の揺れ実験
- ・プリンと色えんぴつで免振実験
- ・プリンとお菓子で地盤と建物の揺れ実験
- ・トリップぶるるミニで揺れ実験
- ・おもり 2 つで共振実験
- ・まるばつ棒で強い建物の実験
- ・消しゴムと竹ひごで建物の揺れ実験 etc

○Web ページ URL

https://www.cstc.or.jp/whats_new.php?d_id=493

※対象：小学 4 年生～中学 3 年生（親子参加 OK）

3. 編集後記（事務局・協力団体のひとこと）

中部防災推進ネットワークに協力団体として参加しております、中部経済連合会の■■■■と申します。

中部経済連合会では、主に企業防災を担当しておりまして、着任から2年が経過いたしました。

先日、弊会では、会員企業のみなさまと東日本大震災の復興現場から学ぶ東北フィールドスタディ（視察会）を開催いたしましたので、その時のお話をさせていただきます。

視察会では、宮城県石巻市の『大川小学校跡地』での語り部ガイドや岩手県陸前高田市の民間震災遺構『米沢商会』での追体験など複数の被災地を巡り、その場所では体験・経験できないことを行い、学びを得ました。

やはり、被災された場所を自分の目で見て、被災された方から直接自分の耳で話を聞くということは、メディアや動画サイト等で情報を得ることより、はるかに奥が深く、とてもリアルな状況を感じることができました。

また、参加者のみなさまからも、災害を「自分ごと」として捉える、とても良い機会となったという声をいただきました。

被災された（津波でお子さんをなくされた）方のお話の中で、「裏山（高台）やハザードマップは、津波を止めてはくれないし、命は守ってくれない。それらを使って、私たち人間が、どのように行動するかが、重要である」という、とても教訓になるお言葉もいただきました。

まさに、その通りで、とても優れたBCPを策定し、様々な減災対策を行っても、それを理解して、いざというときに利用する（動く）ことができなければ、意味がないのです。

減災は、ある一定の組織や担当者が取り組むものではなく、一人一人が、災害を『自分ごと』として捉え、かつ災害は想定を超えるものであることを肝に銘じて、準備

(事前対策)を行うことが、改めて重要だと思いました。

この中部地域では、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されています。今できる減災対策からコツコツ実施していき、発災時に後悔することのない様にこれからも取り組みを継続していきたいです。

(一般社団法人 中部経済連合会

)